1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２１年2月２５日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800400		
法人名	社会福祉法人興愛会		
事業所名	夢の村グループホーム		
所在地	宮崎県西諸県郡高原町大字広原３８２１番地１ （電　話）0984-42-4585		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町２番２２号		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月25日（水）

【情報提供票より】（平成２０年１２月２０日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)１７年６月６日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計	９　人
職員数	９人	常勤８人，非常勤１人，常勤換算７．２人	

（２）建物概要

建物構造	木造亜鉛　造り
	１階建ての　１階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	18,000～20,000　円		その他の経費(月額)	実費　円
敷　金	有（　円）	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（平成２０年１２月２０日現在　）

利用者人数	９名	男性	１名	女性	８名
要介護１	0	要介護２	1		
要介護３	3	要介護４	2		
要介護５	3	要支援２	0		
年齢	平均　86.2 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険高原病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、集落民家からやや離れた山間に立地している。やさしい色使いの建物で、利用者のこれまでの生活の継続を支援すること等をうたった理念をもとに認知症の「人」の部分を大切にし、利用者を共感的に受け入れること等を掲げている。サービスの質の向上を目指して運営推進会議の内容も充実しており、職員は地域包括支援センター主催の勉強会、他研修に参加し日々研さんしている。また、家族の宿泊や利用者がホームの生活になじみ、安定し納得しながらサービスを利用できるようサービス開始前の体験入居等、柔軟な支援が行われている。介護計画は諸記録と連動しており、ホームでよりよく過ごすため家族と共に本人本位に検討されるすばらしい取り組みがある。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	評価の狙いや活用方法を多くの職員は理解し、職員会議等で話し合いが行われて幾つかの改善がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組みの状況（関連項目；外部４）
	自己評価については、ミーティングや職員会議等で目的や意義を話し合い、職員から自己評価の項目ごとに書き込みをしてもらったり、評価を連絡ノートに挟んで職員に目を通してもらっているが、全職員の自己評価に対する確認が得られているか確認できない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議を２か月に１回開催し、会議への積極的な参加の呼びかけが行われている。多数の参加があり、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等テーマごとの議論がなされている。また、会議記録を家族に配布したり、職員にも回覧しサービスの質の確保を図っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	苦情箱を設置したり、利用者の日常生活等を載せた家族便りを定期的に届けている。家族が職員に遠慮なく意見や苦情を言える雰囲気があり、家族から出された意見や話しの内容は全職員で共有できるように報告ノートが作成されている。家族から出た意見は運営推進会議で話し合い、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームの場所が山間にあり、近所、民家が遠いため、地域とのつながりが難しいが、法人のデイサービスが隣接しているので足浴や諸行事時に積極的に参加して地域の人や利用者が住んでいた近所の人に会いに行っている。今後は地区の消防団と話し合ったり、地区の文化祭や福祉祭等に交流の場面を計画的に作って行きたいと考えている。

２．評　価　結　果　（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 　地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した内容の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 　管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示し、ミーティングや職員会議等で話し合いをしているが、理念を具現化するには至っていない。長文の理念なので今後は、全職員で理念を掘り下げて話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図りたいと考えている。	○	立場や経験にかかわらず、パートの職員も含め事業所で働く職員一人ひとりが、事業所の理念の中身を知り、日々のサービスの提供場面において、理念が反映できる取り組みがなされることを期待したい。
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 　事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所、民家が遠いこともあるが法人のデイサービスが隣接しているので、足浴や諸行事等に積極的に参加して、地域の人や利用者が住んでいた近所の人に会いに行っている。地域の文化祭や福祉祭りに参加したいと考えているが実践できていない。	○	地域住民とのかかわりを前向きに検討されているが、今後は更に共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動（地域の消防団等）や役割を担っていく努力を積極的にしてほしい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 　運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施する意義を多くの職員が理解し、自己評価票に職員が書き込んだり、話し合いが行われ、一部は改善されている。が前回の評価結果に対する改善計画シートが作成がなされておらず、具体的な改善計画および改善点が確認できない。	○	運営者を含む全職員で自己評価に取り組んでいただきたい。また、外部評価の結果を踏まえ改善計画シートを活用するなどし、具体案の検討や実践につなげるための取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、２か月に１回開催されている。運営会議への積極的な呼びかけが行われ、地域包括支援センター職員、市町村担当者、民生児童委員、家族等が参加してテーマごとの議論がなされ、その意見をサービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現場や利用者の課題解決のために相談・指導を受けて、グループホームの利用者の生活の質の向上を図る等、常に市町村担当者と行き来する機会がある。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族便りで利用者の近況報告を行い、来訪時や電話等でも本人の状況や暮らしぶりを家族に連絡している。金銭管理は、定期的に報告されており、家族に確認してもらいサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が自然体で職員に相談や苦情を言える雰囲気があり、職員に報告された内容は報告ノートに記録され、全職員で共有されている。苦情箱の設置もあり、積極的に外部者から出された意見や苦情を話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が交代する場合は、利用者のダメージを最小にするための検討を行い、職員が交代した時は、異動後も定期的に足を運んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月に２回開催しており、また、他事業所と相互研修会等の交流を行っている。研修後は復命報告がなされ、職員の質の確保や向上に向けた取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西地区グループホーム連絡協議会や各研修会に出席して、日々のサービスや職員育成に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が、サービス開始前に体験入居できる。ホームの生活になじみ、安定し納得しながらサービスを利用できる柔軟な支援の取り組みがなされている。また、家族の宿泊も可能である。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族の了解を得て、本人が今まで呼ばれてきた名前で声掛けしている。利用者を敬い、寄り添い、利用者の話を聴くことを大切に思いや意向を知ることに努め、分かち合い、共に支え合える関係づくりを築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけたり、寄り添ったりして、利用者の思いや意向の把握に努めている。不穏時には、職員が添い寝や本人の側に居ることで安心してもらっている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	地域でその人らしく暮らし続けるために、必要な支援が盛り込まれた個別の具体的な介護計画が作成されている。また、各記録も介護計画に連動している。今後も、全職員で利用者の思いや意向を把握し、生きた取り組みをしていただきたい。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画実施状況・評価表が作成されており、介護計画と照らし合わせて、現時点での利用者や家族の状況や意向、サービス状況とずれがないように適切な見直しが行われている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ドライブの帰りに、利用者の自宅を回って帰ったり、デイサービスに行き、足浴を行っている。家族の要望により家族の宿泊等に対応できる支援体制がある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する掛かりつけ医と連携が図られている。基本的には家族同伴の受診となるが、家族との話し合いによって、承諾書ならびに病院受診同行料金表を作成して、職員が家族に代って適切な受診できる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から終末ケアについて本人や家族と話し合いを随時行い、掛かりつけ医と話し合いのもと、事業所が対応し得る最大のケアについての説明を行っている。重度化に伴う意志確認書、終末期に対する対応指針等は定められていない。	○	段階的な合意は家族等との話し合いで得られているが、重度や終末期の利用者に対して、安心と安全を確保し、よりよく暮らすためにできるだけ早期から関係者全体の方針の統一を図っていくことが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るために内部研修が月２回行われ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。トイレのひき戸の開閉が難しいようだが、早めの対応をお願いしたい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの本来持っているペースや、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者に付添い介助するばかりではなく、利用者と一緒に食事をし、不穏な利用者に対しても気持ちが落ち着くように声掛けや場面づくりがなされていたが、利用者と一緒に同じ食事を食べるには至っていない。	○	事業所の特性を踏まえて、運営者を中心に利用者と一緒に食事が楽しめる環境づくりを前向きに検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週３回の入浴支援がなされ、入浴日以外は足浴も行っているが、これまでの生活習慣や希望に合わせた入浴は行えていない。	○	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援してほしい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意な事を把握し、力を発揮してもらえるように、お願いできる仕事を頼み、できない時は、歌を一緒に歌ったり、利用者に寄り添って話を聞く等、日々の暮らしが楽しみのあるように支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に３回程、利用者と共に買い物に出かけたり、ドライブに出かけている。季節によって外出支援の度合いが異なるが、個別に家族と出かけたり、隣接のデイサービスに出かけ地域の人と話をする機会を作っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一時、利用者の状態により鍵を掛けていたが現在は施錠を行っていない。目を離さないケアに心がけ、部屋の配置にも心を配り、利用者が安全に過ごせる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年２回の防災訓練を実施している。地域の高齢化が進んでおり、地域の人々の協力が難しい環境にある。職員は、災害時の具体的な避難策について、いざという時に確実な避難誘導ができるように認識している。	○	消防署や地元の消防団・警察等との連携を図りながら、事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことが必要なので、地元の消防団等と支援体制の整備に取り組まれていくことを期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、本人の状態に合わせた食事形態の工夫や介助の方法の情報を共有している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東側のトイレは、優しさの感じられるレースのカーテンが付けられている。フロアの共用空間の飾りつけや物品の配置が高すぎて、利用者の目線と合わない。	○	居心地の良さや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のある共用空間の飾りつけや物品の置き場所を利用者や家族、職員と一緒に考え、利用者にとって居心地の良いくらしの場となるように努力してもらいたい。また、音や声の刺激に注意を払うことが求められる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたたんす、机、ソファ―等の家具類を持参してもらい快適に過ごしてもらう配慮を行っているが、持ち込みも少ない部屋もある。	○	利用者が居心地良く、プライバシーを大切に安心して過ごす環境作りの工夫が大切であり、家族の協力と運営者を含めた全職員で、利用者がその人らしく、居心地の良い居室で過ごせるような取り組みがなされることを期待したい。

※ ▒ は、重点項目。